

ぐんま東毛労基通信

太田労働基準監督署

TEL (45) 9920

FAX (45) 5573

太田

TEL (46) 5774

FAX (46) 1544

館林

労働基準協会

TEL (72) 8890

FAX (70) 7622

大泉

TEL (62) 4334

FAX (62) 3619

目次

太田労働基準監督署長着任のご挨拶	2 頁
㈱トモク館林工場の働き方改革への取り組み	3 頁
平成30年の県内の死亡災害発生状況	4 頁
平成29年の県内の一酸化炭素中毒について	4 頁
太田労働基準監督署人事異動	5 頁
3月に発生した死亡事故に係る緊急要請について	6 頁
ゴールデンウィークに連続した休暇を取得しませんか	6 頁
協会だより	6 頁

平成30年 年間標語

健康な心と体で安全作業
目指すは笑顔の無災害

（株）トーモク館林工場の働き方改革への取り組み

株式会社トーモクは、東京に本社を置き、段ボール、紙器、住宅、運送等の事業を行う東証1部上場企業で、館林他16か所に工場、11か所に営業所等を有し、段ボールの国内シェア10数%、段ボール専門メーカーとしては国内トップの企業です。

今回は、館林市野辺町906-1にある館林工場に取り組んでいる働き方改革について取材しました。

館林工場は段ボールの生産工場で、従業員数176人、製造、販売、管理等の部門があり、従業員は主に製造部門に配置されています。生産ラインは全自動で、作業員は端末を使って装置のオペレーションや印刷製版の設計・制作等間接業務を主に行っており、工場に入った第一印象はさながら無人工場といったところです。

生産ラインは、平均的な工場の4倍ほどの能力があり(国内トップ)、1日に約200種類の段ボールを流しながら約20件の工程変更を組み入れるため、前日に作成した生産計画が跡形もなくなり、仕事の指示ミスや不良品対応等と相まって、4年ぐらい前までは多くの残業が発生していた。

そこで、3年程前に先進的なシステムを導入し、最適な生産計画を瞬時に立てられるよう業務の効率化を図った。その結果、20年以上のベテランでなければ立てられない業務計画がキャリアの無い人でも可能となった。また、作業員の生産装置のオペレート能力の向上を図ったことにより、不良品の発生率が激減した。このような業務の効率化、生産性の向上により残業が減少し、就業時間8時30分から17時30分の内、16時30分で生産を終え、後片付けをした後、17時からミーティングを始め、17時30分に業務を終了できるようになった。

残業時間の把握については、従業員がきちんと申告しない雰囲気は過去にはあったことから、古い体質を一掃することに努め、残業命令簿を作成し、本人のサインをもらい、出勤管理簿と残業命令簿の照合を行うことで確認をしている。

製品の運送についても、これまで外注先の運送会社の運転手に荷待ち時間が生じていたり、積み込む製品の保管場所が見つげにくかったこと等から、拘束時間が長くなることに問題意識を持っていた。そこで、上記システムは、生産計画を立てると瞬時に配送計画も立てられ、製品の保管場所もわかるようにし、事前に運送会社に情報を流すことによって無駄な時間が生じないよう荷主として配慮した。また、配送先に対しても納品待ち時間が生じないよう協力を要請し、運転手の拘束時間の短縮を図ってもらっている。

有給休暇の取得率は事務系間接部門も含めて、ほぼ100%となっている。数年前から工場長命令で、年間計画を立て、全員が交代で5日間の連続休暇を取ることを義務付けている。前後の土日を入れると9連休になる。このようなことを可能にするため、10年程前から作業員の多能工化を図ってきた。同社オリジナルの技能検定制度を導入し、どのような作業にも対応できる7段階で最も上級のレベルA取得者は、5人に1人の割合である。

このように、残業を減らし、有給を増やしていても、むしろ生産性は上がっている。今後、更に福利厚生も充実させて、魅力ある職場にしていきたいとのことです。